

加東市民病院は、昭和31年に国民健康保険「社病院」として開業し、平成20年7月に加東市民病院に改称しました。
現在は、内科・神経内科・呼吸器内科・消化器内科・循環器内科・小児科・外科・泌尿器科・整形外科・婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・皮膚科・放射線科・リハビリテーション科・麻酔科の16科、病床数139床で運営しています。



地域医療を守る 加東市民病院

近年、国の医療費抑制政策の推進や医療制度改正による医師不足など、病院を取り巻く環境は厳しさを増しています。そのような中、市民病院では、市の基幹病院として、信頼される病院づくりに取り組んでいます。

最新機器の導入

医療の質と患者サービスの向上を目指し、他の公立病院に先駆けて、最新型のMRI

I（磁気共鳴画像診断装置）や、電子カルテシステムを導入しています。

小児科診療の実施

平成18年8月末から休診となっていた小児科診療を再開するなど、診療科を充実させることで、生涯にわたり安心してかかる病院づくりに取り組んでいます。

人材の育成

地域住民のみなさまに信頼される病院を目指し、スタッフの育成にも力を入れていきます。特に、入院患者のみなさまにとって、最も身近な存在といえる看護部では、昨年度から「変革」をテーマに掲げ、さらなる質の向上に努めています。

看護部では、「地域住民のみなさまに温かい看護を提供する」という理念のもと、患者満足度の向上



最新機器の導入

最新型MRI



診療科の充実

小児科診療



人材の育成

救急看護研修

地域満足度の向上
経営改善と効率化
職員満足度の向上
人材育成



新人宿泊研修

従来から、市民病院では看護師教育に力を注いでまいりましたが、新人看護師教育については、厚生労働省から提示された指針を基に、今年度、体制を整備し直しました。
また、中堅看護師や、経験豊富な看護師が、それぞれの興味や関心のある分野の知識を深め、実践に活用していきます。よつな体制も整えています。
今後、「加東市民病院の看護は一味違う」と感じていた

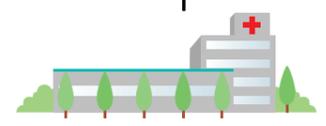
加東市民病院経営健全化基本計画に基づき、経営健全化に取り組んでいます。
また、今年2月には、兵庫教育大学大学院の浅野良一教授ら7人による評価委員会を立ち上げ、基本計画の進捗状況などについて、外部の専門家によるチェックを受けています。

経営の健全化

加東市民病院では、地域のみなさまがいつでも安心してかかる、信頼性の高い医療の実践を理念とし、地域のみなさまに愛される病院づくりを進めていきます。

今後、加東市民病院では、地域のみなさまがいつでも安心してかかる、信頼性の高い医療の実践を理念とし、地域のみなさまに愛される病院づくりを進めていきます。

問い合わせ
加東市民病院
☎42・5511



地デジ放送にも完全対応 床頭台をリニューアル

入院中も快適に過ごしていただけるよう、病室の床頭台（ベッドの横にある台）をリニューアルしました。

新しい床頭台には、液晶テレビや冷蔵庫などが備え付けられています。加東市ケーブルテレビにも接続していますので、市の文字放送やテレビ大阪などもお楽しみいただけます（テレビと冷蔵庫は有料です）



新しくなった床頭台

小児科ワンポイント診察 「夏に注意する子どもの病気」



市民病院小児科部長
石原重彦医師

夏かぜ
当直をしていたある夜遅くのことです。夕方から39度の発熱が下がらないという4歳の男の子が、両親と一緒に来院しました。熱中症を心配する両親に咽頭を診た私は言いました。「夏かぜです」。

冬のかぜと異なり、夏かぜは咳や鼻汁などがなく、いきなり高熱で始まることがあります。その多くはウイルスが原因です。しばらくすると手足や口などに発疹が出る手足口病、喉の奥に小水疱ができるヘルパンギーナ、咽頭炎と結膜炎を伴うプール熱などであると

最後に、急な発熱に備えて、解熱剤は常備しておきましょう。

